

第 8 回文化発信戦略に関する懇談会 議事録

日時:平成 20 年 11 月 13 日(木曜日)16:00～18:00

場所:文部科学省 東館 3 階 講堂

出席委員:池上委員, 久保委員, 茶野委員, 遠山委員, トーザン委員, 野村委員, 福原委員, 山内委員

■ 中間まとめで提言した事項への対応状況について

(事務局から資料 2・3・4 に基づき説明後, 委員等から御発言。)

○ 日本人自身が日本文化への理解を深め, 文化発信できるようになるためのメニュー作成に向けた調査研究について, 具体的に規模や切り口を教えてほしい。

△ 既存のホームページや書籍について分析した上で, それぞれの分野の歴史, 国内の状況, 国の施策を併せて紹介するようなものをつくることを考えている。国で直接行うのは難しいので, シンクタンクあるいは団体に委託して調査研究を行いたいと思っている。

○ 来年度予算要求について, 何に力を入れていくのかわかりにくい。

△ 文化庁全体では3つの柱を立てている。1つ目が文化芸術創造プランの推進, 2つ目が文化財の次世代への継承, 3つ目が日本文化の戦略的発信。この日本文化の戦略的発信の中でどこに重点を置いているかというのはなかなか難しいが, 新規や拡充の要求をしているもの, 例えば国際芸術交流支援事業, メディア芸術関係, 模様替えをする国際文化フォーラムが挙げられる。

○ 文化芸術創造都市は大変よい施策だと思う。表彰について, どのような基準で選ばれるのか, その規模や質について, 考え方を明確にした方がよいのではないか。

△ 文化庁で情報収集し, 有識者の意見を伺って, 候補リストを作成し, それをもとに内部の審査委員会で決定するというプロセスをとっている。審査基準については, 公開しているものはないが, 行政だけでなく市民, 大学, 企業などの協力を得られているということ, 現代文化と伝統文化とのバランス, 都市の規模の大小, 都市部と過疎地のバランスなどに留意しながら審査している。まだ2回目だが, 今後は, 審査基準を明らかにする等の工夫も必要になるかとは思っている。

○ 文化芸術創造都市の表彰について, 既に達成している都市を表彰するものと, 取組途中で頑張っている都市を激励するものと, 2種類あると思う。出来上がっている都市を敢えて表彰する必要があるのかというのも検討課題ではないか。近江八幡市のように, 全国の人には余りなじみがない, しかし地道にやっていることがこの顕彰を通してわかる意義は大きい。

○ コ・フェスタの一環として開催された秋葉原エンタ祭りには, 海外の映画プロデューサーも多く参加して打合せをした。そこで, アメリカにあるワンマンガという海賊版サイトで多くの人がマンガを読んでいる

ことがわかった。マンガ家にとっては作品が何ら対価なく読まれているということであり、また、間違った翻訳により国際紛争に発展する可能性もある。しっかりと監修できる海外向けサイトがあれば、文化発信としても大きな力になると思う。こういったインターネット上の海賊版対策や文化発信施策についても、目に見えてわかるようにしていただけると有り難い。

○ 国際文化フォーラムの衣替えについて、その目的を聞かせてほしい。

△ 文化人の中でのネットワーク形成を図るというところに力を入れたいという趣旨で、国際芸術人会議として模様替えする予定。

○ 国際芸術人会議の参加者について、文化人や芸術家に限定すると、非常に狭くなってしまうのではないかと。例えば、学者や外交官で芸術的知見が豊かな方々など、今までの国際文化フォーラムは多彩な様子で進んできた。今までの伝統も踏まえ、参加者に幅を持たせることを検討いただきたい。

○ 神楽坂で、高層ビル建設反対の運動から始まって、まちづくり全体に取り組むようになった NPO の活動がある。日本人向けや外国人向けのアクティビティも行っており、ビジネスにもなる。文化庁の予算は多くないのだから、こういった市民からのイニシアチブを応援すると面白い。

■ 文化発信に貢献した外国人などの表彰制度の創設について

(池上委員より、資料 5 に基づき説明。)

○ 既存の顕彰制度はあるが、受賞人数が少ないので人数を増やす、それから若手を表彰する。人数と年齢という 2 つの着眼点から新たな制度の提案をしたいと思う。

○ 第 1 案としては、やはり文化勲章につながる文化功労者というのが非常に格の高い制度で、これに日本文化伝達分野というようなものがないだろうかと考えている。法律を変えなければならないとか、一省庁じゃなく国の制度であるとか、予算とか、いろいろな制限があると思うが、これが第 1 案。

○ 第 2 案としては、文化庁長官表彰に日本文化伝達分野をつくる。長官表彰は個人では毎年 25 人くらいずつ出ているが、外国人は今までゼロということである。そこで、日本文化伝達分野という分野を設けて、当該分野で功績ある外国人を顕彰するということを考えてみたらどうか。外務大臣表彰でも文化面の人が含まれていると思うが、日本研究とか日本語研究とかいろいろ含まれるため、今回本懇談会でやろうとしている日本文化の発信に貢献した外国人の顕彰制度とは完全には一致しない。人数的にもこれだけでは十分でない。

○ 第 2 案の授与方法について、どんなふうにやれば一番よいか。文化庁が在外公館を持っているわけではないから、海外の人に届ける方法が難しいところ。フランスでは、いろんな勲章があるが、レジオンドヌールや国家功労勲章などは大使自らその人の功績を読み上げて、その人ごとにパーティーをやって渡している。

○ 第 3 案は、日本人を任命している文化交流使制度に、新たに、外国人を任命する日本文化伝達使を加えるもの。第 2 案と併せて、文化庁長官表彰の受賞者の中から日本文化伝達使を任命したらどうか。

(茶野委員より、国際交流基金賞について説明。)

○ 国際交流基金賞は、海外における日本理解若しくは日本人の対外理解を深めて、国際相互理解とか

国際友好親善の増進において顕著な功績があった個人あるいは団体を顕彰する制度。交流基金ができた翌年から制度が始まった。

○ 当初は、顕著な功績のもと、既に多大な影響力を発揮している個人又は団体を顕彰する国際交流基金賞と、今後の活躍を期待するという意味を込めた奨励賞との2つであり、年間それぞれ2、3件程度という形が長く続いた。独立行政法人化後の2004年に見直され、国際交流基金賞は1件、国際交流奨励賞は文化芸術部門、日本語部門、日本研究部門の3部門にわけ合計3件という形になった。そして今年2008年、基金賞と奨励賞を統合し、全体で3部門計3件を表彰する形となった。背景には、奨励賞の対象者も世代が上がり、基金賞と奨励賞との差が見えにくくなったということがある。

○ 国際交流基金賞の受賞者の国別分布について、特に70年代、アメリカの日本研究者を中心に授与されてきたので、米国の受賞者が非常に多くなっている。また、国際交流基金賞も奨励賞も、トータルで見ると最も多いのは日本人あるいは日本の団体ということになる。全体として北米やアジアに傾いており、中東やアフリカなどは、日本との関係や日本理解の浸透度等の違いから数が少ない。この地域的偏りについて問題意識を持っている。

(池上委員の提案を踏まえ、委員等から発言。)

○ 我々の提案を具体的にさせていただき嬉しい。

○ 春秋の叙勲の中に文化関係の外国人を増やすため、文化庁の推薦を増やしてほしい。

○ フランスでは、叙勲に際し、いつが都合いいか、何人招くか等を聞いてくれ、シャンパンとカナッペをフランス大使館で用意してくれる。非常に柔軟で、日本大使館でもそうすると喜ばれると思う。

○ 勲章までいなくても、例えば観光大使に任命されるだけでも一生懸命やと思う。

○ 賞金や年金は不要だと思う。北京市名誉市民は紙切れ一枚でメダルもなかった。ただし、先日のオリンピックの開会式セレモニーのときに招待があった。

○ 日本の顕彰は、もらうのが遅い。この人にかけてよう投資しようという意志を持って、少し早めに出すぐらいの気概があった方がよいのではないか。

○ 事足りている人より、資金や箔付けを必要としている人に授与することで、その人が活動しやすくなることが重要ではないか。

○ 競争原理や切磋琢磨の効果も狙い、積極的に顕彰するとよいのではないか。

○ 選考に関わる人の見識も問われると思う。

○ 叙勲の文化、とりわけ、その積極性については、国によって、特に欧州と新大陸のほうで随分差がある。

○ 文化力が高い国がどうしているかということで、例としてフランスを選んだ。

○ 外国人に対する顕彰は、外交的にも効果があると外交官からも聞いている。

○ コストがかからないなら、できる限り多く表彰することが重要。もらった人が喜んで前向きにやっていけるのだったらどんどん出していただくとうい。

○ 多く表彰するのはよいが、戦略が必要。例えば、フランスの賞を日本の文化人がもらうと大変誇らしげに見える。これは恐らく、日本人の中にフランスは芸術の都であるというブランド意識があるからだと思う。そういう日本のブランドを戦略的に考えて、日本で賞をもらうことの意味を持たせると効果的ではないか。

○ 第2案と第3案が比較的やりやすいかと思う。他にいろいろ表彰をもらっていても、文化庁から文化関

係の賞をもらうことが一番嬉しいというふうにしたい。

- 文化芸術創造都市の表彰も受賞自治体から喜んでいただいております、予想以上の効果がある。苦労して文化的なことをやっていらっしゃる方々を文化庁が表彰することは大きな意味があると実感している。